

中学校区におけるめざす子ども像： 積極的、主体的に学び続ける子・自ら学び、共に考える子

堺市立東百舌鳥小学校
校長 加藤 健

令和6年度 重点目標：「ゆめを持ち、自分の良さを伸ばし、自分も人も大切にできる、心豊かな子どもの育成」
●子どもが互いに学び合う学習(「居場所」と「出番」のある授業)を通して、「言葉の力」「書く力」の育成をめざす。
●自尊感情を高め、予防的な取組の充実をすすめ、「いじめ」「暴力」をしない、させない、見逃さない指導を徹底する。
●行事・清掃・給食などの活動を通して、全員で協力する重要さを意識づけ、一人ひとりを認め合う集団づくりをすすめる。
●運動に親しむ環境整備をすすめ、体育指導の工夫と改善をかさね、全職員で取り組む「食育」、安全教育の充実により、「運動に親しみ、元気な子ども」の育成をめざす。

確かな学びの現状	豊かな心・健やかな体の現状
各学年での計画的、組織的な取り組みは継続して行っているが、目標に達していないなど結果に反映されていない部分があり、改善を加え、今年度も継続して取り組むことが重要であると考える。基礎的・基本的内容の習得、家庭学習習慣の確立をめざした継続的な自主学習の取組、読書活動の継続的な取組を重点化する。また、高学年においては、一部教科担任制について継続し、さらなる学力向上を図りたい。また、ICT(タブレット)の活用については、様々な課題について再度検討をし、ICT取り組みの組織化を図っていきたい。学びあう授業づくりにおいては、研修を充実させ、教科を絞り授業力の向上をめざしていきたい。	学校のルールや集団行動については、組織的に継続した取組を行っているが、課題が残る部分がある。研修の充実を図るとともに、学校のルールや集団行動について児童が主体的となって活性化した取組を行いたい。また、規範意識の向上についても粘り強く取り組んでいきたい。特別支援教育については、校内支援委員会のさらなる組織的な取り組みの強化を行いたい。今後も、学力向上と学級経営を基盤とした人権教育、特別支援教育を含めた組織的な生徒指導体制を一体的に進めるとともに、保護者・地域の支援・協力を得て、学校・保護者・地域で子どもを育てていく取り組みを推進したい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	基礎基本の定着	言語活動を重視し、基礎基本の定着を図る。	朝の学習(火・木・金)の時間の定着を図り、基礎・基本の力をつける取り組みを継続する。 金曜日は書くことに重点を置いた学習をする。	単元テスト(知識技能)90点以上	単元テスト	学期末	B 1学期の単元テストにおいて、算数では、1・2・3・4・5年、国語では、2・3・6年で90点前後の点を取っている。他の学年は80点から85点程度に留まっている。全国学力テストの知識技能領域では、5年生は堺市平均と同程度、6年生は平均を下回る結果となった。クラスの実態に合わせて、単元テストの再テストを取り入れ、より基礎・基本が定着するよう復習に力を入れていく。	B 2学期の単元テストでは、90点に届かないクラスが多かったが、ほとんどの学年平均で85点以上とすることはできた。再テストもすることで、平均を伸ばしているクラスもあった。知識技能の学力の向上はあらゆる学習の基盤となるので、学力の定着がみられるよう復習や反復練習を大切に継続して取り組みたい。	B 未回答、誤答をその場で地震で見直すようなテスト時間が良いと思う。再テストは児童も先生も負担ではないか。継続しての取組をお願いしたい。
			●読書活動を推進する。 水は朝の読書タイムとし、学校全体で読書に取り組む。	・読書ノートの読了状況の調査(改良した読書ノート) ・堺市児童生徒学習生活状況調査で「本が好きで、たくさんの本を読んでいる。」の項目→肯定70%以上	・読書ノート ・堺市児童生徒学習生活状況調査	学期末 年度末	B ●改良した読書ノートを使い、読書を進めている。毎月の委員会の時に進捗状況を確認し、声掛けをしている。簡素化したことにより、記入しやすそうではある。 ●朝読の日には委員会の子どもによる放送を入れ、週1の朝読の日を大切にできるようにしている。	B ・読書カード達成者は低学年32人、高学年14人と増えている。読書ノートが3種類あることによって、自分に合ったものを選び、使いやすそうだった。 ・週1回の朝読の日に放送でアナウンスをすることで、より定着した。 ・司書との連携により、並行読書や学級文庫の充実が図れた。 ・アンケートでは、1年生では、本が好きな子が96%ほどいるのに、読む時間が作れている、になると60%まで下がるという課題がみられた。週1の朝読の時間はあるが、他学年はもっと時間がないようだ。本が好きな子が、学年が上がるにつれて減っていくというも課題である。	A 本の好き嫌いに関わらず、読書週間をつける時期と思う。読書活動す真の取組にて醜聞な達成状況であると思う。読書離れの中、職員の工夫がみられるのが良い。読書タイムも良い。高学年から低学年に本を薦めるなど、子ども同士で紹介する取組をしてみるのもよいのではないか。
			●家庭学習確立のための取り組み。	・自主学習ノート活用状況 ・堺市児童生徒学習生活状況調査で「自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の項目で堺市平均、もしくは前学年の結果を上回る。	・自主学習ノート ・堺市児童生徒学習生活状況調査	学期末 年度末	B ●全学年において自主学習への取り組みを啓発している。週末の課題や、1週間の中で提出を課すなどして自主的な学習習慣の確立を狙っている。 ●学年通信の裏面に子ども達が取り組んだ自主学習を掲載して、モチベーションのアップや家庭への啓発を行っている。	B ・本年度を通じて、子供たちや保護者に対し、自主学習ノートの見本を示しながら啓発を行うことができた。自主的な学習習慣の定着に向けた意識向上が図れたと考えられる。 ・IRT(堺市学調)の学習方略(プランニング方略)に関するアンケート結果は、以下の通り。 4年生:68.8 5年生:70.3 6年生:66.9 なお、本年度のアンケート内容は目標時のものから変更されていたため、今後は経年比較を行いながら、学習方略の定着度や推移を継続的に分析していきたいと考えている。	B 自分で学習する力がつくと良い。能動的に取り組む姿が理想的だが、自主というのは、ハードルが高いと思う。課題、設定が必要なのではないか。自主学習ノートの成果をもっとわかるようにすれば良い。
	指導の工夫・改善	教職員研修を充実させ、児童の基礎的・基本的な知識や技能を活用して、問題を解決できる教職員の指導力の向上を図る。	●全学年で研究授業を行い、当日の授業参観だけでなく、事前の指導案検討や事後の研究討議会などを通し、教職員同士の意見交流を深めながら、授業力をともに高め合う。 ●中・高学年への専科指導及び教科担任制の導入による授業の質の向上、および授業担当時間の削減の推進をはかり、担任と個々の児童が十分に向き合える時間を確保する。 ●ICT機器を活用することで、児童が主体的に授業に取り組めるように指導する。 ●自力解決に率先して取り組むための支援を行う。(ノート指導、教室や板書への掲示物、前時の復習やつまずきへの支援 など)	・全学年による研究授業および事後討議会 ・児童アンケート「先生はわかりやすく勉強を教えてくれる」の肯定的解答が90%以上 ・堺市児童生徒学習生活状況調査の「勉強しているときに、わからないことがあってもあきらめずに取り組んでいますか」の項目→堺市平均を上回る。 ・堺市児童生徒学習生活状況調査の「問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか」の項目→堺市平均を上回る。	・研究授業の実施状況 ・学校アンケート ・堺市児童生徒学習生活状況調査 ・授業観察 ・児童のノートなどの成果物	学期末 年度末	A ●各学年で研究授業を行い、当日の授業参観だけでなく、事前の指導案検討や事後の研究討議会など行ってきた。教職員同士の意見交流を深めながら、授業力をともに高め合うことができています。 ●堺市の先進的な事例を学ぶICT活用研修を行い、各指導者でその内容を活かした取り組みを始めている。	A ・今年度よりほぼ全ての学年で研究授業を行い、当日の授業参観だけでなく、事前の指導案検討や事後の研究討議会などを通し、教職員同士の意見交流を深めながら、授業力をともに高め合うことができた。 ・児童アンケート「先生はわかりやすく勉強を教えてくれる」の肯定的回答が92.4%となり、目標値を上回った。その他の項目についてもおおむね良好なデータが得られ、学校全体として、児童の学習への前向きな態度を醸成することができたと考ええる。 ・ICT活用研修を行い、児童が主体的に授業に取り組めるよう教職員の指導力向上を図ることができた。また、校内でICT活用の実践を共有する仕組みを使って、学校が一体となりICT活用を進めることができた。	A 取組と成果、とても良いと思う。良く工夫している。学校全体で共有出来たら良い。

豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成		人権教育の指導内容、指導方法を研究し、授業を実践し、仲間づくりとコミュニケーションの向上を図る。	・授業の中で、ペア活動・班活動を取り入れ、交流の場を増やしている。	授業の観察 実践報告書（人権ウィーク）	随時 年度末	A	授業内でのペア活動、グループ活動はどの学年・学級でも積極的に行っている。	A	各月の人権テーマに応じた実践やペア活動・班活動、学年交流の機会の充実により、仲間づくりとコミュニケーションの向上をはかることができた。	A	人権教育はとても大切だと思う。
			総合的な学習の時間・生活科と人権教育とのかかわりを年間計画に位置付け、各学年の学習の流れに見通しを持たせる。	・年間指導計画を作成し、計画的に実施している。	年間指導計画	年度末	A	おおむね達成している。まだ実施できていないところもあるので、各学年で確認し、漏れのないように行っていく。	A	年間計画をもとに、おおむね順調に実施できた。毎学期初めに計画の見直しや進捗の確認を行う機会を設けたので、漏れのないように行うことができた。	A	特記事項なし。
			研修指導委員会を通して、困っている子どもを報告する機会を設け、月ごとの変化や成長を学校全体で共有する。	・配慮が必要な児童の実態を把握し、児童理解を深める。	毎月の研修指導委員会	毎学期	A	計画通り実施している。ただ、現状を伝えるだけで成長まで共有できていないので、積極的に伝えていく。	A	配慮が必要な児童の実態は、毎月の研修指導委員会で情報共有できた。成長についても共有できたが、学校全体にもっと広げられる機会をとることができたよかった。	A	充分と思う。
			道徳の授業や人権教育をはじめ、普段の生活の中で、ちがいを認め合い、たがいに思いやる優しさを育てるために人権テーマを設定し、人権の講話や授業実践に取り組む。	・（3～6年生）学校アンケートの「人の気持ちに分かる人になりたいと思いますか」という項目で、「当てはまる」という回答を90％以上にする。	学校アンケート	年度末	A	毎月の朝礼での講話、月ごとのテーマの実践を継続して行っていく。	B	毎月の人権目標に合わせた授業実践は行ったが、（3～6年生）学校アンケートの「人の気持ちに分かる人になりたいと思いますか」という項目で、「当てはまる」という回答が88、5％であった。	B	アンケートの「気持ちが分かる人になりたいと思う」はハードルが高いと思う。「相手の気持ちや考えを理解しようとしていますか。」ぐらいの質問が答えやすいのではないか。
			●（特別支援教育に関して） ・様々な課題や困難を抱える児童の特性や発達段階に応じた指導の工夫と、授業のユニバーサルデザインを推進する。 ・児童や保護者の困り感に寄り添い、教育相談を充実させる。	・児童のアセスメントを通して、具体的な支援・対応策を検討する。 ・職員一人ひとりのスキルアップをめざして、校内研修を実施する。	授業の観察 研究授業 教室環境	年度末	B	課題のある児童についてアセスメントを実施し、支援COと担任間で支援策の検討を行っている。毎月の研修を通して、特別支援教育における職員のスキルアップを図っている。	B	特別支援研修において教職員のスキルアップをめざすと共に、本校の事例を基により具体的な支援策に迫ることができた。また、保護者の思いに寄り添い必要であれば関係機関に繋ぐなど、通級担当と連携し、多くの教育相談を実施した。	B	特記事項なし。
			・支援を必要とする児童に対して個別の支援計画・指導計画を作成し、コミュニケーション能力や自己肯定感を育む。 ・支援学級・支援学級児童の理解啓発を進め、インクルーシブ教育の推進を図る。 ・支援学級・通級指導教室・不登校支援教室・通常学級の連携を強化する。	・支援コーディネーターを中心とした校内特別支援委員会の充実。 ・生徒指導・SC・SSWなどの関係機関と必要に応じて連携することで、チームとして対応する。 ・年間を通して積極的に交流や啓発の機会を設ける。	児童観察 教室環境 児童の感想	年度末	B	課題のある児童について授業観察・教育相談を実施し、特別支援委員会において具体的な支援内容、対応策を検討している。支援担任からTV朝会で啓発をしたり、各学年との交流や啓発授業を積極的に展開したりしている。	B	特別支援教育COが学級担任と連携し、通級と支援学級という学びの場の選択を示しながら教育相談や特別支援委員会の充実につなげた。また支援学級児童が通常学級でも安心して過ごせるよう全学年で啓発授業や交流行事を展開した。	B	特記事項なし。
	規範意識の育成	学校のルールや集団行動を身に着ける。	日常生活に関して ・あいさつの励行 ・帽子や名札の着用 ・チャイムを守る ・清掃指導の推進 ・いじめ事象の未然防止・早期発見・解決 ・集団行動指導の徹底 （集合、整列、話を聞く姿勢）	・あいさつができる。 （あいさつレベルの設定、活用） ・チャイムで素早く行動ができる。 ・帽子を登下校時必ず着用している。 ・名札を毎日必ず着用している。 ・積極的に掃除をしている。 ・いじめやいじめにつながりそうな事象を先生や保護者、友達に相談して解決している。	児童観察 生活の記録 アンケート 児童観察	随時 学期末 年度末	B	校内の規律面での課題が残っている。特に身だしなみに関しては、帽子・名札の未着用をはじめ、ピアス着用、染髪など課題がある。指導の基準を明確にし、対応を図っていきたいと考えている。また、いじめ・暴力事案に関しては教職員での情報にもれがないよう、システムと連動した児童情報記録ファイルをつくり、記録を残しつつ会議記録も残そうにしている。	B	・挨拶に関しては、朝礼や児童会を中心に継続して取り組むことができた。 帽子・名札の着用はおおむねできている。また、運動場で遊ぶ時間が増えたが、チャイム着席も問題ないと言える。 ・児童情報のデータでの共有が進み、全職員で児童をみていく意識が高まり、各学年・管理職・生徒指導とのつながりが深まった。	B	あいさつは、なかなか難しい。
健やかな体づくり	健康で丈夫な体づくり		保健に関して ・毎月の安全点検 ・児童に応じた安全指導 ・保健について啓発活動	・保健安全委員会を通して、安全面について考え、怪我・事故の防止に努める。 ・危険を予想し、怪我や病気・事故をしないよう注意して行動できる。 ・ほけんだよりや保健室前掲示を活用し、児童・職員の安全に対する意識を高める。	・児童観察 ・安全点検表 ・保健室利用状況	随時 年度末	B	保健室来室状況より、5・6・9月のけがの件数は、200件をこえている。4月・7月は、120件ほどである。保健安全委員会の活動を通して、けがの件数を減らしていくことが今後の課題である。冬季は感染症予防についての取り組みを進めていきたい。	B	保健室来室状況はけがの件数が200件を下回り、減少傾向にある。今後も児童への啓発を続け、けがの予防に努めていく。また、昨年度は感染症により学級閉鎖が多数あったが、今年度は1クラスだけに留まっている。	B	いくら注意してもケガはあると思う。
		健康・安全について理解を深め、運動に親しめるとともに、体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。	体育指導・体力向上に関して ・高学年体育専科による他学年への授業の実施 ・なわとびタイムの実施	・新体力テストの記録を比較（4月と2月に各学年1クラスを抽出し実施） ・なわとびタイムの参加状況	・新体力テスト ・児童観察	随時 年度末	B	高学年体育専科教員による他学年への授業を行った。（1・2年の水泳補助・3・4年の水泳授業など）泳力の伸びも見られ、効果があった。11月中旬より毎週水曜日の20分休みになわとびタイムを実施し、意欲的に取り組ませるようにしたい。	A	新体力テストの1学期と3学期の比較では、50m走は0.3秒の短縮、20mシャトルランは4回増、立ち幅跳びは8cmの伸びであった。 なわとびタイムを毎週水曜日に実施し、毎回50～100名程度の児童が参加している。各学年、体育の授業でもなわとびに取り組み、なわとびの習慣がついてきている。	A	特記事項なし。
			望ましい食生活習慣の確立に関して ・全学年で朝食に関する指導 ・全学年で食品ロスに関する指導 ・生活習慣アンケートを活用した啓発 ・長期休業中に食事作りの課題を実施	・朝食を毎日食べると回答した割合85％ ・給食を残さず食べていると回答した割合50％ ・食品ロスについて知っていると回答した児童の割合90％ ・自分で食事の用意ができると回答した割合85％	・教職員アンケート ・生活習慣アンケート	学期末 年度末	B	・朝食を毎日食べると回答した割合84.1％ ・給食を残さず食べていると回答した割合33％ ・食品ロスについて知っていると回答した児童の割合97.7％（5・6年生） ・自分で食事の用意ができると回答した割合84.3％	B	・朝食を毎日食べると回答した割合83.5％ ・給食を残さず食べていると回答した割合33.1％ ・食品ロスについて知っていると回答した児童の割合96.1％（5・6年生） ・自分で食事の用意ができると回答した割合88.5％（4・5・6年生）	A	割合も高く、充分だと思う。熱心に取り組んでいる。
			生活習慣の確立に関して ・アンケートの実施やアンケート結果を活用した啓発	・みんいくアンケートで「毎日、何時頃にねますか」の項目で、前学期より早く寝る児童が増えている。 ・みんいくアンケートで就寝時間が10時までの回答児童70％以上	・みんいくアンケート	学期末 年度末	B	11月アンケート10時までに寝る子どもたちは学校全体では64％（高学年は70％に届かない）	B	前回同様1月アンケート10時までに寝る子どもたちは全体で64％（中高学年は70％届かない）就寝時刻の遅さはスマホ所有率の増加と関わりがある可能性高い。ネットやスマホの使い方や生活の改善の啓発が必要である。	B	特記事項なし。

校長より(年度末) 各学年での計画的、組織的な取組は継続して行っているが、目標に達していないなど結果に反映されていない部分には改善を加え、来年度も継続して取り組むことが重要であると考えてる。「確かな学び」の項目については、基礎的・基本的内容の習得や自主学習において家庭学習習慣の確立をめざして継続し、読書についても読書時間の確保などの課題として来年度も継続しての取り組みを重点化する。また、高学年における教科担任制についても継続し、さらなる学力向上を図りたい。また、ICT(タブレット)の活用については、ICTの校内での実践を共有する仕組みを作るなど取り組みの組織化を行う中で、様々な課題について検討していきたい。学びあう授業づくりにおいては、学校群を視野に入れた上で、教科研修を充実させ授業力の向上をめざしていきたい。豊かな心の育成についても、時程の見直しを図る中で、各研修の充実を図るとともに、学校のルールや集団行動について児童が主体的となって活性化した取り組みを継続したい。また、規範意識の向上についても家庭と連携し、粘り強く取り組んでいきたい。特別支援教育については、校内支援委員会のさらなる組織的な取り組みの充実・強化を行いたい。今後も、学力向上と、学級経営を基盤とした人権教育、特別支援教育を含めた組織的な生徒指導体制を一体的に進めるとともに、保護者・地域の支援・協力を得て、学校・保護者・地域で子どもを育てていく取組を推進したい。

学校関係者評価者から(年度末)
 研修、研究、分析から先生方の努力と、それに伴う成果が表れていると思います。Bは、伸びしろのある継続課題で家庭連携を必要とするものに付しました。今後も子どもたちをよろしく願っています。ご苦労様でした。
 たくさんの子どもたちの為、日々の先生方の努力をよくして頂いてありがとうございます。